

ホームと家族を結ぶ

おとぎれ 164号

社会福祉法人 任運社 特別養護老人ホーム 任運荘

〒879-6601 大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1

事務室：0974(42)2338 寮母室：0974(42)3322

任運社総合相談支援センター 0974(42)4211

任運荘ホームヘルパーステーション 0974(42)3351

※ 任運社内では介護職を『寮母』と呼びます

F A X : 0974(42)4187

E-mail : ninunsou@gmail.com 編集・発行

<http://ninun.or.jp>

任運荘広報委員会

令和3年度 社会福祉法人

任運社敬老会

9月20日(月)の敬老の日『任運社敬老会』が開催されました。今年も新型コロナウイルス感染症予防の為に各施設で行いました。

任運社廣本理事長より「敬老の日、おめでとーございます。敬老会は65歳以上の方が対象となりますが、日本では65歳以上の方は全人口の30%になったそうです。今日はそれだけの方々がお祝いを受けております。また、利用者や職員が、1人もコロナの罹患者を出さないで、今日を迎える事ができたのが、とても嬉しい事です。今日、敬老を受ける方々を皆さんでお祝いしましょう」と敬祝の言葉を述べました。

任運荘で敬祝を受けたのは、次の4名の方々です。

【百寿】五嶋ナルコさん【米寿】穴見富貴子さん・工藤フサヨさん・秦町子さん
受賞された方々には、敬祝状と記念品が授与されました。また任運社より「思い出しカード」や「紙芝居」の贈呈があり利用者を代表して清田マサエさんが受け取りお礼を述べられました。

お楽しみ会では、工藤若美寮母が『黒田節』と『安来節』を披露しました。続いて看護職の2名が『みちの助・みか太郎』と名乗り、50年修業したという『敬老の舞』を披露しました。見事な曲芸が披露され、驚きと笑いがホールの埋め尽くしました。

最後に平井綾子さんから「来年もまた、元気に敬老会へ参加できるように頑張ります」と、お礼と誓いの言葉が述べられ、敬老会は終了しました。

担当 馬場 由希子



安来節「腰が入ってますね」



ナースの「お笑いコンビ」



【米寿】 秦町子さん



【米寿】 工藤フサヨさん



【米寿】 穴見富貴子さん



【百寿】 五嶋ナルコさん

だんご汁作り

11月18日(木)、この日のお昼ご飯は『だんご汁』で、それに使用する『だんご』作りをホールで行いました。皆さん、慣れた手つきでだんごを伸ばしており、「今日はだんご汁な。早く食べたいわ」と、お昼ご飯をすごく楽しみにされてました。

お昼ご飯時、平井綾子さんは、だんご汁に入っているだんごを箸で持ち上げ、「私が伸ばしたのはこれじゃあ。この形の悪さは見覚えある」と笑顔で教えてくれました。皆さん、自分が伸ばしただんごを探しながら召し上がってました。



高山ヒサコさん、平井綾子さん。私達が伸ばしました。



後藤ヨシミさん、伸ばすのが上手でしたね。



志賀フキエさん、美味しいですか？



甲斐重信さん、自分が伸ばしただんごは格別でしょうね。

任運社福祉サービス相談委員会への報告

今回は、令和3年7月～9月に、サービス相談委員会において任運荘が報告したアクシデントとインシデントについてお知らせします。

報告件数	
7月	4件
8月	6件
9月	4件
内 訳	
薬関連	3件
表皮剥離	3件
出血・内出血	3件
胃瘻チューブ	2件
センサー入れ忘れ	1件
座り込み	1件
配膳ミス	1件

前回に引き続き、薬に関連する報告が3ヶ月で3件ありました。看護師が定期薬のセットを忘れていたために薬の服用ができていなかった件や薬箱を置き間違えた(他の職員が気づいた)件などがありました。薬は利用者にとって大切な物であり、薬のセット時は薬の事だけに集中して行うように気を引き締めていきます。センサーのスイッチ入れ忘れについては、多動な利用者には、ご家族のご理解のもとで、ベッドからの転落防止のために敷センサーを使用しております。今回は排泄介助に入った際にセンサーのスイッチを切り、介助終了後にスイッチを入れる事を忘れてしまった。センサーは利用者の安全を守る物であり、また職員を守る物でもあります。スイッチは基本切らない事で職員間では申し送っているのですが、どうしても切らなければならぬ時もあります。その時の対策などを職員間で更に話し合いを持ってまいります。

新型コロナウイルスと言う言葉を聞かない日はなく、夕方に発表される県内の陽性者数に一喜一憂する毎日ですが、施設では玉葱植えと恒例の干し柿作りが先日、行われました。しばらく家事仕事から離れているのに、ベテランの表情。包丁は危ないからとピーラーを準備した職員に「包丁の方がむきやすいよ」と心配をよそに、すらすらと皮をむかれ、玉葱植えでは、愛おしそうに土をならしておられました。

皆さんの笑顔を見るときに思うのです。私達こそ、生かされているのだと。どうか皆さんの大好きなおいしい干し柿ができますように。

今年も駆け足に一年が過ぎようとしています。いつもご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

施設長 吉野 明子

★広報委員のひびり言

10月11日、この日の17時から行われたプロ野球ドラフト会議の結果は、とても気になりました。なぜなら、中学生時代に任運荘へ職場体験に来てくれた子が指名されるかもしれないとの事だったからです。結果は、育成選手で指名をされました。おめでとうございます。これから支配下登録を目指して頑張っていたかたがですね。そして、新型コロナが落ち着けば、任運荘を訪ねて欲しいと、勝手に思っています。

つばやま

平井 綾子さん

迎え火を玄関で燃えてしまうまで見ておられた。手を合わせながら、「うち方ん、おとつたご主人は、うちが、いじおるのが分かったかな」と、にっこり！

山村 節子さん

職員に「あなたはべっぴん、べっぴんさんやー」と言う。職員が「ありがとうございます」と言う。「私は目が悪いから」と言われ、職員は固まっていた。

三代 千恵子さん

ゼリーを食事介助している時に「最後の一口です」と伝えると、召し上がった後に「最後と聞くと一段と美味しく感じるわね」と笑顔。

後藤 スミエさん

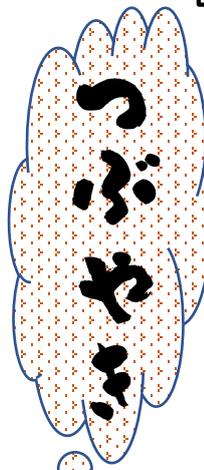
ベッドに横になっている時に・・・「後藤さん」と声をかけると、「はー」「はー」一緒に「入ろうよ」と、自分に掛けていたタオルケットをめくって言われた。職員が「一緒に横になりたいところですが、仕事をしないといけないんですよ」と言う。「ふふふ」と笑っておられた。

衛藤 秋光さん

車椅子を自操されていたので、「どちらまで行かれますか」と声をかけると、「布団が恋しがっちゃうけん、ちよつと部屋に帰ってきます」と笑顔で答えてくれる。

秦 町子さん

職員が「こんにちは。お元気ですか」と声をかけると「あー久しぶり」と笑顔。「家の前を通ると、お嫁さんがいつも、お庭のお花の手入れをしますよ」と言う。「ほんと？あの人忙しいのになあ」と、涙ぐまれている。



三代 キヨコさん

お盆前後は雨が続く天気でした。その時の職員との会話です。

「蒸し暑いですね」「はー」「はー」「はー」

「毎日雨ですね」「本当。嫌になりますねえ」

すぐく丁寧話してくれました。

堀 右橋さん

玉葱植えの時に息子さんのお嫁さんと逢われた。後ほど職員が「先ほど息子さんのお嫁さんに逢われましたね」と言う。「たぶん、逢った」と言われる。「たぶん？」と聞き返すと、「俺はすぐには聞かぬけん、どあいつが覚えぬけん」と笑顔で言われました。

岡部 ヒサヨさんと後藤 ヨシミさん

だんご汁作りをしていた時の事。利用者にだんごを伸ばして頂いていた。その時に岡部さんが「へえ、いじおるから、手袋をして伸ばすんじやわ」と笑いながら言われた。それを聞いていた後藤さんが、だんごを伸ばしながら「若えし(若い人)のやる事に、いじおる言ったらいけん！そんな時代つちいじもんがある」と言われている。

後藤 ツユ子さん

家族の話になり・・・職員が「お母さんの名前は何かですか？」と聞くと、「チドコ」と答えられた。「お父さんの名前は？」と聞くと、「イサム。お父さんから怒られたくないよ」と答えられた。「兄弟が8人ってお聞きしましたが、兄弟喧嘩をして、怒られたことはないんですか？」と聞くと、「兄弟喧嘩もそんなにせんかったよ。優しかったから怒られたことはないな」と教えてくれた。

佐保 ハツ子さんと平井 綾子さん

甘柿を切って持って行くと、佐保さんが「私もちよつだい」と言われた。平井さんが「歯がいつもねえけん、食べれんじやねえな」と気づかっている。佐保さんは柿を口に入れ、ゴリゴリと食べられた。そしてひと言「はぎし(歯茎)で大丈夫ー」

社会福祉法人

任運社初盆供養・盆踊り

8月16日(月)の18時30分より、初盆を迎えられた利用者を偲ぶ『任運社初盆供養・盆踊り』が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症予防の為に、仏間での供養経は任運荘の利用者18名が集まり、騰々舎はオンライン中継での開催となりました。

初盆供養会は任運荘の酒井結奈寮母の司会で始まり、初盆供養者は任運荘20名・騰々舎3名の方々が紹介され、大福寺の東住職による供養経が静かに行われました。職員が香炉を持ってまわり、参加した利用者は一人ひとり焼香をされて、静かに手を合わせていました。

※任運荘で初盆を迎えられた20名の方々です。

- 田北 カスエ 氏 (95歳) 佐藤 ナミ子 氏 (83歳)
- 衛藤 八枝喜 氏 (88歳) 古庄 信子 氏 (95歳)
- 古澤 マチコ 氏 (93歳) 渡邊 アキ子 氏 (94歳)
- 高山 強士 氏 (91歳) 後藤 ユキエ 氏 (97歳)
- 衛藤 キヨ 氏 (93歳) 児玉 ハチヨ 氏 (102歳)
- 渡部 長義 氏 (93歳) 柴田 民子 氏 (90歳)
- 小深田 敏明 氏 (81歳) 波津久 チヨコ 氏 (93歳)
- 佐藤 亀代 氏 (110歳) 深田 アイ子 氏 (85歳)
- 渡邊 年子 氏 (90歳) 三谷 高明 氏 (87歳)
- 眞部 タマエ 氏 (95歳) 衛藤 千代子 氏 (86歳)



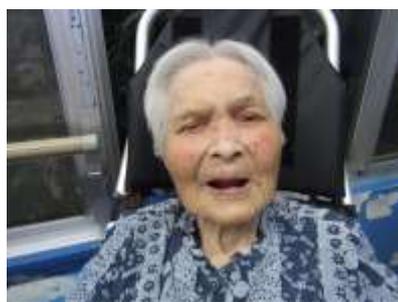
大福寺の東住職による『供養経』



しっかりと手を合わせる
後藤ツワさん



佐保ハツ子さん、その団扇で盛り上げてください！



加藤スマコさんも笑顔で楽しまれていました。



河原雪夫さん、寮母とツーショットで！



羽田野キミ子さん、良い笑顔！



盆踊りの様子



麻生正治さん、スマイル全開！

供養経が終わると、ホールで盆踊りを行いました。今年も『しあわせ音頭』『ゆかた音頭』『火の国太鼓』の3曲です。利用者の輪の中で、浴衣姿の職員が踊りました。工藤久子さんは盆踊りの練習に参加していたので、一生懸命職員の踊りを見ながら一緒に踊られていました。2曲踊った後に休憩を取り、利用者へ甘酒が振舞われました。「美味しい」や「おかわり」との声が聞かれ、3杯飲まれた方もいました。休憩後に『火の国太鼓』を踊り、職員の「はい、はい！」という大きな掛け声に合わせて、利用者の大きな手拍子で、任運荘ホールはとても盛り上がりました。

今年も盆踊り後の花火は行いませんでしたが、皆さんは「良かったよ」「楽しかった」と笑顔で言っていました。最後に吉野施設長が閉会の挨拶を行い、盆行事は無事に終了しました。

担当 文東 明美

令和3年度

任運荘運動会

10月10日(日)に任運荘ホールにて、運動会が行われました。橋本祐輔の開会宣言で始まり、昨年優勝の白組団長の工藤フサヨさんが優勝杯の返還を行いました。任運社廣本理事長より「昨年に続いて任運荘だけの小さな運動会ですが、今日は頑張ったと思えるようにしましょう。また、この後の運動会弁当も楽しみにして下さい」と、激励の言葉がかけられました。

赤組団長の岡部ヒサヨ氏、白組団長の工藤フサヨ氏が二人で元氣よく選手宣誓しました。

準備体操では、毎年恒例の『体操ブービー』を片手に、工藤寮母が元氣よく面白おかしく体操して、利用者も口角もしつかりとほぐされ、競技に備えました。

最初の競技は『ほら早くあっちに行つてよ!』で、4つの風船を相手のコートに多く入れた方が勝ちという競技です。一生懸命に手を伸ばして風船を相手コートに打ち込んでました。



赤組団長 岡部ヒサヨさん(右)
白組団長 工藤フサヨさん(左)



後藤スミエさん、準備はOKですか

さて今年の職員によるアトラクションは『あいうえお体操』でした。利用者から「アンコール」と声上がり、職員は息を切らしながらその期待に応えました。続いてスクール体操姿の廣本理事長率いる4名が応援に駆けつけてくれました。普段と違う姿に、圧倒されました。

2番目の競技は『きゃー!倒さないで!』と題したボウリング競技です。悔しそうにされている方や、応援に感極まっつうれし泣きされる方がいました。

3番目の競技は、昨年も盛り上がった『勝ち負けは運命だ〜!』です。じゃんけん札を使つての運任せ競技です。ここで、負けていた赤組が驚異の強運を見せ連戦連勝しました。

最後に恒例の「食欲の秋」と題したおやつ取り競技です。水ようかんを手に皆さん嬉しそうでした。

すべての競技が終了し優勝杯を手にしたのは「赤組」でした。団長の岡部ヒサヨさんは「最後まで楽しくできて良かった。職員の皆さんもありがとうございました」と挨拶され、惜しくも敗れてしまった白組団長の工藤フサヨさんは「あゝ楽しかったですまた頑張ります」と来年への意気込みを述べました。この後、厨房手作りの運動会弁当を「美味しいよ」と言われながら召し上がりました。

職員による手作りの小さな運動会でしたが、利用者の大輪の笑顔が咲き誇った運動会ができました。

担当 西原 恰菜



赤組優勝おめでとうございます



三代千恵子さん、狙ってます



伊東晴子さん 伊東滋代さん



「そりゃ、いけえ〜!」



芦刈トヨさん、「先生もどうぞ」



清田マサエさん、勝ちましたか?



廣本理事長 コスプレ...



職員のアトラクション

『久しぶりに土を触ったよ』

～玉葱植えををしました～

11月4日、秋晴れの気持ちの良い日の午後、中庭にて【玉葱植え】をしました。岡部ヒサヨさんは「そら、鍬を持ってこないかん」と張り切っていました。が、プランターを見て、「あら」と大笑いしました。橋本恵美子さんは「体に良いわよ」と笑顔でした。皆さん、苗を持って身を乗り出し「こころ辺な」と指で穴を掘って植えていました。穴見フジエさんは「苗の先端をちぎったほうがいいんで」と、ちぎっていました。高山ヒサコさんは「プランターの端に先を掛けてね」と教えてくれました。植えてしまつてから水の準備をしかけた職員に「水は、やらんでいいよ」と教えてくれました。皆で「大きくなれよ」と念を込めました。秦町子さんが「まあ、心配せんでも、その内太るわ」と言ってくれました。「来年の収穫はいつ頃ですか？」と尋ねると、堀右橋さんが「5月頃じゃ」と教えてくれました。今から楽しみます。

担当 森園美



加藤エミコさんは職員と一緒に植えました。



「苗の先端をちぎるの」と穴見フジエさん。



「これでいいんですか？」と確認される河野ハル子さん。



秦町子さんは、終始楽しそうにしましたよ。



堀右橋さん、来年の収穫が楽しみですね。



橋本恵美子さん、しっかりと植えられましたか？

干し柿作り

11月9日(火)、寒さが厳しくなつたこの日に、恒例行事の『干し柿作り』を行いました。

皆さん、包丁やピーラーを使い、慣れた手つきで、100個ほどあつた渋柿を、あつという間にむいてしまいました。皮をむき終わつた渋柿は、職員が手伝いながら紐で結び、竿に吊るして干し柿作りは終了しました。

これから段々と寒くなつてくるので、美味しい干し柿ができる事でしょう。皆さんでおやつ時間に、楽しく美味しく食べたいですね。

担当 宮崎 正規



衛藤秋光さんに包丁よりもピーラーの方が安全と思ひ渡すと「こら、栓抜きな？」。



三代智子さん。「むけたでえ」と、ピーラーを使って皮むきをしてくれました。



岡部ヒサヨさん。「どんどん持ってきなさい。はいはい」と、手際よく、たくさんの渋柿をむきました。



平井綾子さんに「手を切らないようにして下さいね」と、声をかけると「手は切らんけど息が切れた」と笑われる。

11月生

伊東 晴子さん (80歳)



「主人のご面会時は笑顔が素敵です。誕生日にメロンを持って来てくれました。美味しく召し上がりましたよ。」

担当寮母 伊東 菜保美

三代 智子さん (87歳)



最近、居室で過ごされる時間が多くなりました。でも、ホールにいらつしやる時は、とても笑顔で、カメラを向けるとピースしてくれます。

担当寮母 酒井 結奈

衛藤 秋光さん (87歳)



誕生日プレゼントは何か良いか聞くと、「携帯電話が欲しい」と言われ、返答に困っている」と「あなたの気持ちだけで十分」と、優しい衛藤さんです。

担当寮母 河野 憲恵

佐保 ハツ子さん (99歳)



「私は今年で99歳になるの。こんなに長生きするなんてね」が、最近の口癖です。でも、「ありがとう」と、職員には、いつも笑顔を見せてくれます。

担当寮母 羽田野 弘美

引田 ケサさん (91歳)



花が大好きな引田さん。庭の花を眺めながら「花が咲いちよんなあ。きれいやなあ」と笑顔。窓から見える四季の移り変わりを楽しまれます。

担当寮母 佐藤 美和

佐藤 静子さん (94歳)



「家の柿を取りにおいで」と、よく寮母に言われていました。先日、任運荘の庭に生っている柿を見られており、何か昔を思い出しているような目をされておりました。

担当寮母 伊東 菜保美

年齢は令和3年11月現在

喫茶 ぐじり焼きを食べました

11月9日(火)の午後、喫茶行事がありました。今回は、上田栄養士がじり焼きを焼いて、皆さんに振舞いました。「懐かしいなあ」や「子どもや孫に作りよつたんで」と、昔を思い出しながら楽しい時間を過ごしました。「おかわりは、ねえんな」と、黒砂糖入りのじり焼きは、とても大好評でした。

※じり焼きとは、地粉を水で溶いたものをクレープのように薄く焼いて、細かく砕いた黒砂糖やかぼちゃのあんを巻いて食べる料理です。名前の由来は、生地が「じりい(大分の方言で「ゆるい」という意味)」ことから来ている説、「じりじり」と生地を焼くからという説があります。大分県内で広く浸透している料理で、地域によってさまざまな呼び名があるのも特徴です。



工藤久子さん



飛賀アヤ子さん

誕生者紹介

9月生

佐藤 秀子さん (90歳)



「ご家族の話をする時、傾きながら笑顔を見せてくれます。佐藤さんの笑顔で私達は頑張れます。」
担当寮母 酒井 結奈

後藤 ツウさん (84歳)



いつもご家族の事を話されています。知り合いの方が来られた時は、とても素敵な笑顔でお話をされています。
担当寮母 木本 佳代子

山内 スマアさん (78歳)



「ありがとう」と職員に感謝の言葉を言われます。スポーツ観戦が大好きで、東京オリンピックの時は、日本の選手を一生懸命に応援されました。
担当寮母 阿南 理恵

村上 昌子さん (85歳)



久しぶりに会われたご友人に「村上さん」と声をかけられ、涙目になりながらも「はい」と答え、感動の再会を果しました。
担当寮母 河野 憲恵

後藤 ツユ子さん (96歳)



職員と子ども時代の遊びの話になり、後藤さんはお手玉をして「いたと言われ」「いちとせ、にとせ・・・」と、数え歌を最後まで歌ってくれました。
担当寮母 高山 悦子

10月生

佐藤 シズコさん (85歳)



少しふくよかになられて、サラサラの黒髪と美肌は、アンチエイジングの先頭に立っておられます。
担当寮母 馬場 由希子

後藤 イサヲさん (93歳)



「後藤さん」と声をかけると、「はい」と笑顔を見せて返事してくれます。人形が大好きで、いつも大切に抱えていますよ。
担当寮母 河野 憲恵

嶺 八千代さん (96歳)



お孫さんが窓越しの面会に来られた時、「英治君な」と、久しぶりに見るお孫さんの姿を、とても笑顔で喜ばれておりました。
担当寮母 佐藤 美和

渡邊 キヨさん (93歳)



喫茶で栄養士が「じり焼き」を焼いてくれました。渡邊さんは「美味しいです」と言われ、全部食べました。そして、内緒で栄養士から、おかわりを頂いてましたよ。
担当寮母 高橋 みのり